

『看護研究発表会』

2月14日に今年度の院内看護研究発表会がありました。今年の発表は3題ありました。

中央手術室より

「患者の要望に沿った術前訪問の検討～現状の術前訪問に対する患者評価から～」

3階病棟より

「A病棟における日勤の超過勤務に関する業務内容と看護師の意識」

5階西病棟より

「心臓カテーテル検査・治療を受ける患者に対して行うオリエンテーション内容の検討」



各々の発表ごとに活発な質疑・応答が行われ有意義な時間となりました。当院の看護研究は1年かけて計画書を作成し、翌年、計画書に基づき実施します。

2年間に渡り看護研究に携わり、「看護研究」について学び得ることができます。研究アドバザーには長野県看護大学の先生方が入って下さり、発表当日には総評をいただけます。

— 今年度の座長より —

看護研究発表を振り返り、看護における研究とは何かという課題を毎年のように考えます。日々の現場で業務を実施しながら看護研究に取り組むことは大変な労力です。今回の研究発表は専門職として臨床現場で疑問に思うことを自分達が実践しうる課題を持って研究がおこなわれていました。研究データの分析もしっかりとできていてわかりやすかったです。座長を務めることで研究成果を会場全体で共有できるように大変ながらも経験でき、良い機会となりました。



— 橋本真由美 —